

小学校英語力アップ事業

学校教育課

国際理解教育推進事業

1 背景（国の動向を受けて）

～小学校英語力アップ事業～

平成32年（2020年）に全面実施する小学校学習指導要領の改訂により、小学校では5、6年生で年間70時間の英語科が新設され（現行は、年間35時間の外国語活動）、3、4年生では年間35時間の外国語活動が新たに始まる（現行は、未実施）。また、小学校教育の変更を受け、平成33年（2021年）に中学校の指導要領の改訂を行う。

この国の動きを受け、芦屋市として、各小中学校の英語教育をどのように進めていくのか。英語教育の充実及び指導体制の確立が喫緊の課題である。

2 芦屋市として

外国語教育を通して、多様な価値観を認め合い、世界の中で生きる子どもの育成

◆市内全小学校に、ALTを配置し、
小学校外国語活動の活性化を狙う。

- ・ネイティブの講師を、5年生、6年生全クラスに週1時間、配置する。
- ・授業においては、Listening, Speakingの分野を主に担当する。
- ・低学年における外国語活動を年10時間ほど行う。

芦屋市創生総合戦略 [基本目標2] 若い世代の子育ての希望を叶える

(2)教育環境の充実 小学校英語の教科化に対応した指導の充実

第4次芦屋市総合計画

4-1-2 子どもたちの学習意欲の向上と学力の定着を図る指導を充実します

②小学校における英語学習の教科化に備え、子どもの英語の学習意欲と活用能力が向上するように、英語を系統的、専門的に指導する人材を配置するとともに、中学校との滑らかな接続を目指したカリキュラムを作成し、指導の充実を図ります。

就学前から中学校までの流れ

～小学校英語力アップ事業～

就学前



就学前 ・英語で遊ぼう ・感じる活動 ボランティア

インプットに抵抗感のない時代

ごっこ遊び

生の英語に触れる体験

低学年 ALT

- ・英語で遊ぼう
- ・聞く活動

遊びの中で英語が好きになる

外国語活動への期待

教育のまち 芦屋

<外国語科の目標・抜粋>

コミュニケーションを
図る素地

コミュニケーションを
図る基礎

小学校



中学年 地域 人材

- ・外国語活動
- ・聞く・話す活動

<地域人材配置の理由>

・外国語活動における日本語を交えた指導の必要性

<ALT配置による期待される効果>

- ・ネイティブな英語による表現力の向上
- ・ALTの母国の文化に触れる ・世界の中で生きている実感

・オールイングリッシュの素地が育つ



高学年 ALT

- ・英語科
- ・聞く・話す・読む・書く活動

中学校



中学生 ALT
・オールイングリッシュ
・聞く・話す・読む・書く活動

簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る

英語暗唱・スピーチコンテスト

中学生海外派遣事業

指導者研修について

教員とALTの指導的役割の違いから、
教員にとって必要な力をつけるための研修について

①学習者モデルの確立

②外国語科の授業づくり

Classroom English 研修

→ 子どもたちの模範となる学習者モデルとして
教師に必要となる教室英語(Classroom English)
をマスターするための研修

英語指導基本の『ほ』研修

→ 子どもたちが外国語を学ぶ意味や意義を感じ、
4技能を獲得するため他教科と関連させたりの
言語活動を行ったりする授業づくりのための研修